

2021年3月期 第4四半期 決算説明会資料

2021年4月30日 テレフォンカンファレンス
7741.T [ADR: HOCOPY US] HOYA株式会社

1. 決算概要 [代表執行役CFO 廣岡 亮]

2. 情報・通信事業概況

3. ライフケア事業概況

4. 総括

5. 質疑応答

業績概況

(億円)	Q4 FY19	Q4 FY20	YoY	YoY(%)
売上収益	1,351	1,514	+163	+12%
税引前四半期利益	277	413	+136	+49%
四半期利益	197	308	+111	+56%
cf. 通常の営業活動 からの利益	326	433	+108	+33%

主にEUV blanksやデータセンター向けHDD基板のけん引により、増収増益を達成した。

為替換算の影響

(億円)	前期レート 換算(A)	当期レート 換算(B)	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益	1,499	1,514	+15	+148	+11%
税引前四半期利益	408	413	+5	+131	+47%
四半期利益	304	308	+4	+107	+54%

主要通貨	(A)Q4 FY19 レート	(B)Q4 FY20 レート	変動率
US\$	¥109.11	¥107.15	+1.8% (円高)
EURO	¥120.06	¥128.48	-7.0% (円安)
BAHT	¥3.44	¥3.51	-1.9% (円安)

特殊要因等について

包括利益計算書

(億円)	Q4 FY19	Q4 FY20	YoY
収益合計	1,366	1,531	+166
費用合計	1,089	1,118	+29
減損損失	3	51	+48
税引前四半期利益	277	413	+136

- 1 過去に買収した会社において、当初想定した収益を達成できなかったことから減損処理を実施

ライフケア事業 業績概況

(億円)	Q4 FY19	Q4 FY20	YoY	YoY(%)
売上収益*	884	953	+69	+8%
税引前四半期利益	90	148	+58	+65%

cf.通常の営業活動からの利益	144	190	+46	+32%
-----------------	-----	-----	-----	------

cf.通常の営業活動からの利益率	16.3%	19.9%	+3.6pt	
------------------	-------	-------	--------	--

*外部売上の数値

ライフケア事業 業績概況(為替影響除き)

Q4 FY20業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	936	953	+17	+52	+6%
税引前四半期利益	142	148	+5	+53	+59%
cf.通常の営業活動 からの利益	187	190	+3	+43	+30%

*外部売上の数値

情報・通信事業 業績概況

(億円)	Q4 FY19	Q4 FY20	YoY	YoY(%)
売上収益*	457	547	+91	+20%
税引前四半期利益	199	270	+71	+36%
cf.通常の営業活動 からの利益	195	254	+59	+30%
cf.通常の営業活動 からの利益率	42.8%	46.4%	+3.6pt	

*外部売上の数値

情報・通信事業 業績概況(為替影響除き)

Q4 FY20業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	549	547	-2	+93	+20%
税引前四半期利益	270	270	-0	+72	+36%
cf.通常の営業活動 からの利益	255	254	-1	+59	+30%

*外部売上の数値

サブセグメント別業績

(億円)	Q4 FY19	Q4 FY20	YoY	YoY(%)
ヘルスケア (メガネ/コンタクトレンズ)	645	705	+60 (+49)	+9% (+8%)
メディカル (眼内レンズ/内視鏡/人工骨)	239	248	+9 (+3)	+4% (+1%)
エレクトロニクス (LSI&FPD/HDD基板)	387	466	+79 (+83)	+20% (+21%)
映像	69	81	+12 (+10)	+17% (+15%)

*括弧内は為替換算影響を除いた実質的な増減額

貸借対照表

(億円)	Q3 FY20	Q4 FY20	QoQ
非流動資産	2,873	2,987	+114
流動資産	5,262	5,546	+284
資本	6,516	6,724	+208
非流動負債	454	493	+38
流動負債	1,165	1,316	+151
資本及び負債合計	8,135	8,533	+398

① 現金及び現金同等物 +168億円

キャッシュフロー計算書

(億円)	Q4 FY19	Q4 FY20	YoY
営業活動によるCF	432	525	+93
投資活動によるCF	-137	-78	+59
財務活動によるCF	-124	-435	-312
現金及び現金同等物期末残高	3,180	3,349	+169

① 自社株買いの実施金額が前期より307億円増加したため、財務活動による支出が増加

なお、1/29～4/20実施の自社株買いは上限の400億円の買い付けを終了、全株消却する

1. 決算概要

2. 情報・通信事業概況 [CTO 池田 英一郎]

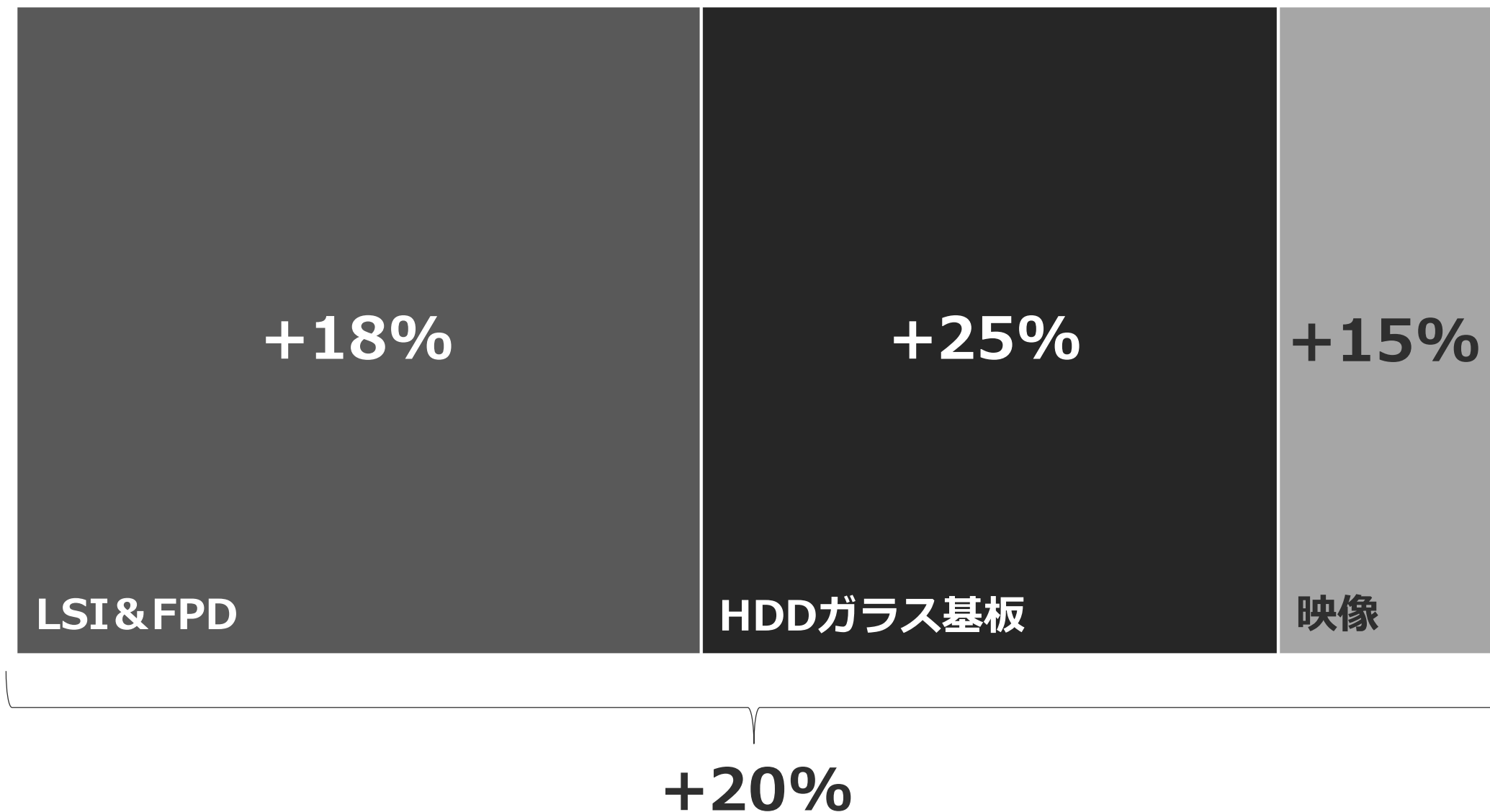
3. ライフケア事業概況

4. 総括

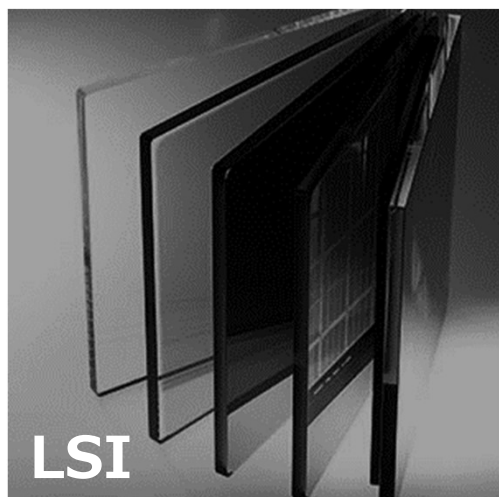
5. 質疑応答

情報・通信事業概況

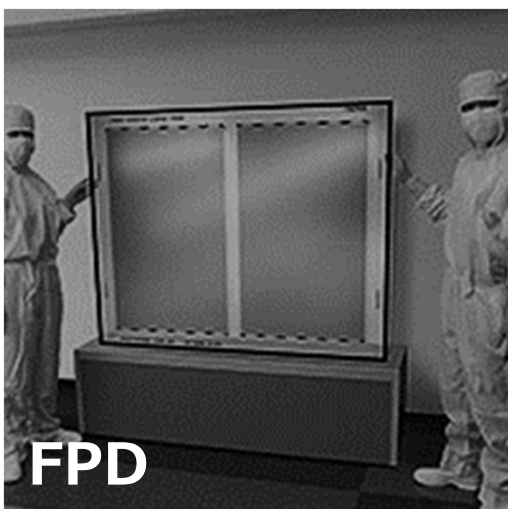
売上増減率 (Like-for-Like)



製品別概況

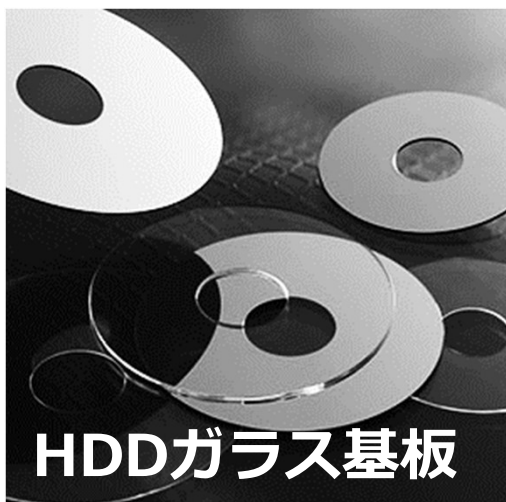


EUVブランクスが前年同期比80%を超える売上成長。FY21は3nm/2nm世代の開発需要が成長ドライバーに。需要増に応じて新工場の稼働を本格化。また、中期におけるさらなる需要増をにらみ、装置等への追加投資を適宜行っていく。

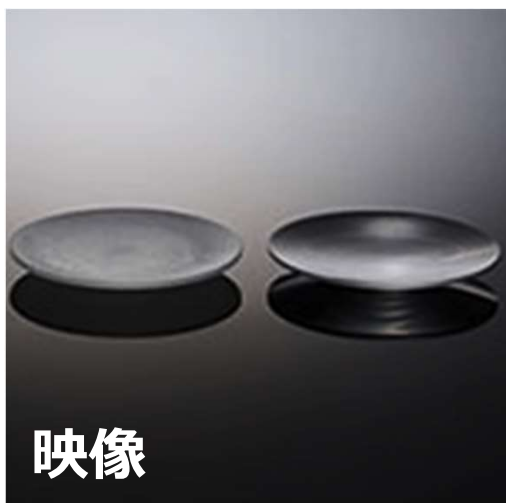


巣ごもり需要に端を発したパネルメーカーの量産専念による開発用途のマスク需要減少が続いたものの、開発再開の兆しが見えてきている。今後有機ELを中心とした高機能マスクに注力していく。

製品別概況



ニアラインの投資サイクルに伴い、3.5"の売上が大幅増、2.5"の減少を補い、売上全体で二桁成長となった。FY21以降も2.5"の縮小を補って余りある3.5"の売上拡大を見込む。また、カイゼン活動を推進し、製造コストの圧縮を図っていく。



ミラーレスカメラ向け交換レンズを中心に需要が徐々に回復し、プラス成長に転換。デジタルカメラ市場が今後再拡大する見込みがない前提で、引き続き新規市場を開拓していく。

1. 決算概要

2. 情報・通信事業概況

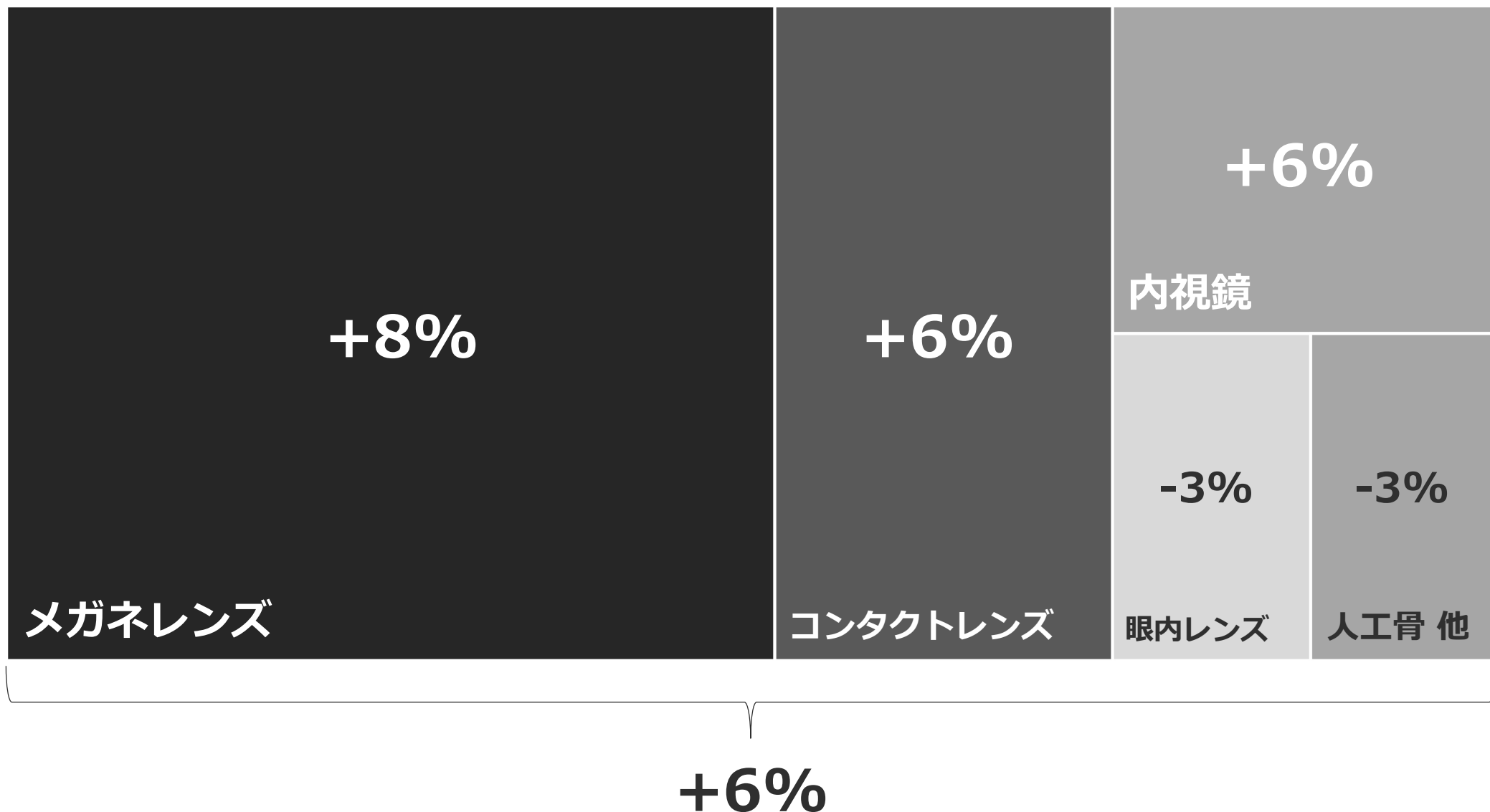
3. ライフケア事業概況 [代表執行役CEO 鈴木 洋]

4. 総括

5. 質疑応答

ライフケア事業概況

売上増減率 (Like-for-Like)



製品別概況



再度のロックダウンにより、小売店の閉店などの影響があったものの、3月以降回復が進み、前年比プラスに。短期的に不安定さが残るものの、生活必需品であることから徐々に正常化していく見込み。近視が世界的に取り沙汰されるなか、近視抑制に関連した製品へ注力していく。



2回目の緊急事態宣言の影響などにより、市場は落ち込んだものの、継続的なシェア拡大（当社推定）や高機能製品のミックスが増加。また、関西エリアにて14店舗展開するチェーン小売を買収。足元の緊急事態宣言下では一部店舗が休業も「ほしい時便（アプリでの購入）」などで対応していく。

製品別概況



前四半期に続き、中国での成長がけん引したアジアが大きく伸びたものの、売上の4割強を占める日本国内の手術件数が戻らず、全体では微減収となった。今後も短期的にはCOVIDの影響はしばらく残ると見込むものの、継続的な市場シェアUPで成長を図っていく。



各国でロックダウンがあったものの、業界が環境の変化に適応しつつあり、市場の活動や投資も再開してきている。その結果、当社の内視鏡売上も成長に転じた。使い捨てるの気管支内視鏡の上市をQ1中に予定。

1. 決算概要
2. 情報通信事業概況
3. ライフケア事業概況
- 4. 総括 [代表執行役CEO 鈴木 洋]**
5. 質疑応答

2022年3月期の展望

- 増収増益を目指す
- ライフケア事業は短期的には不確定要素があるものの、売上の大部分を占める地域（米国＋EU5）でのワクチン接種などを背景に、パンデミック前の水準への回復を目指す
- 情報・通信事業は、継続してEUVブランクスとHDD基板が成長をけん引。両製品の新工場稼働に伴い、償却負担増を見込むものの、増益を目指す
- ESGはマテリアリティを特定し、目標達成に向けた具体策の検討を行う

1. 決算概要
2. ライフケア事業概況
3. 情報・通信事業概況
4. 総括
- 5. 質疑応答**

Appendix

連結業績（年間累計）

(億円)	FY19	FY20	YoY	YoY(%)
売上収益	5,765	5,479	-286	-5%
税引前利益	1,473	1,592	+120	+8%
当期利益	1,146	1,252	+106	+9%
cf. 通常の営業活動 からの利益	1,545	1,640	+95	+6%

ライフケア事業 業績 (年間累計)

(億円)	FY19	FY20	YoY	YoY(%)
売上収益*	3,750	3,418	-332	-9%
税引前利益	622	635	+13	+2%

cf.通常の営業活動からの利益	700	712	+12	+2%
-----------------	-----	-----	-----	-----

cf.通常の営業活動からの利益率	18.7%	20.8%	+2.1pt	
------------------	-------	-------	--------	--

*外部売上の数値

情報・通信事業 業績（年間累計）

(億円)	FY19	FY20	YoY	YoY(%)
売上収益*	1,967	2,010	+42	+2%
税引前利益	881	949	+68	+8%

cf.通常の営業活動 からの利益	886	959	+73	+8%
---------------------	-----	-----	-----	-----

cf.通常の営業活動 からの利益率	45.0%	47.7%	+2.7pt	
----------------------	-------	-------	--------	--

*外部売上の数値

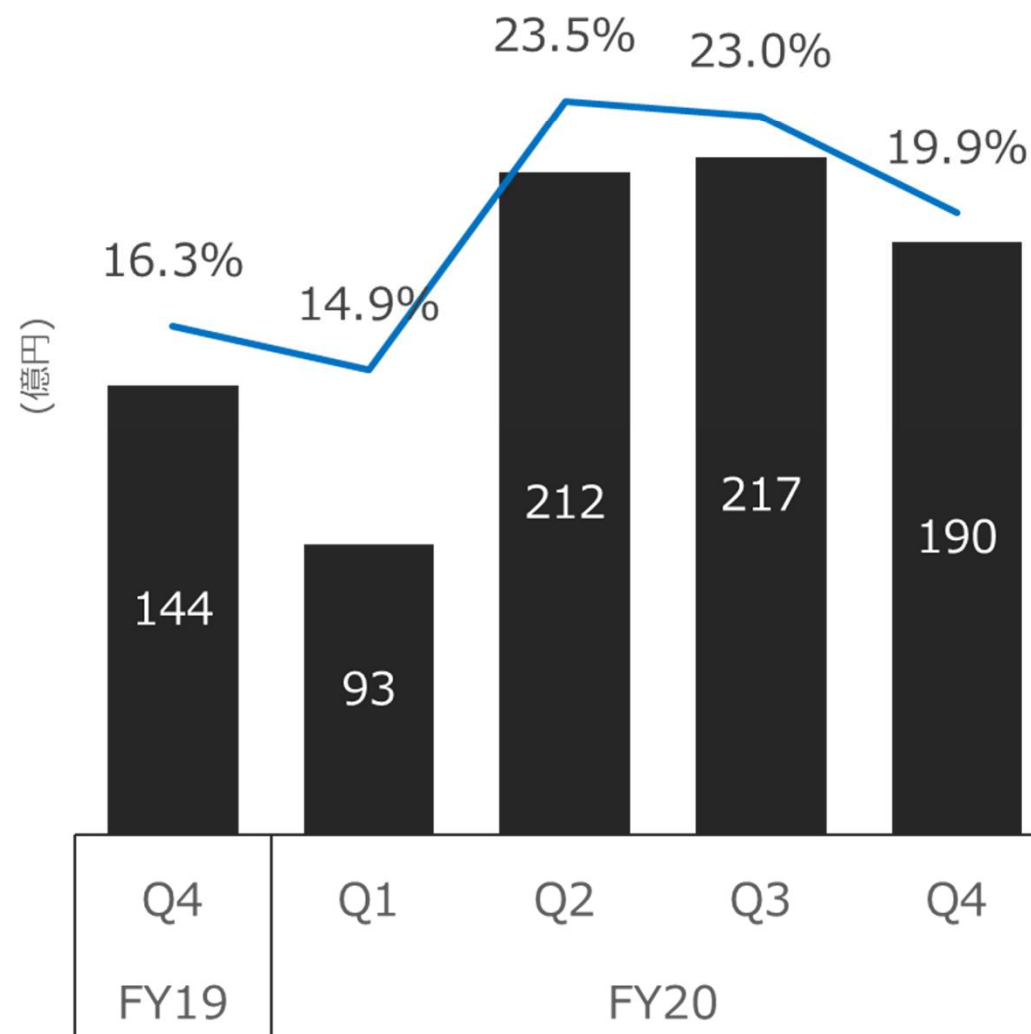
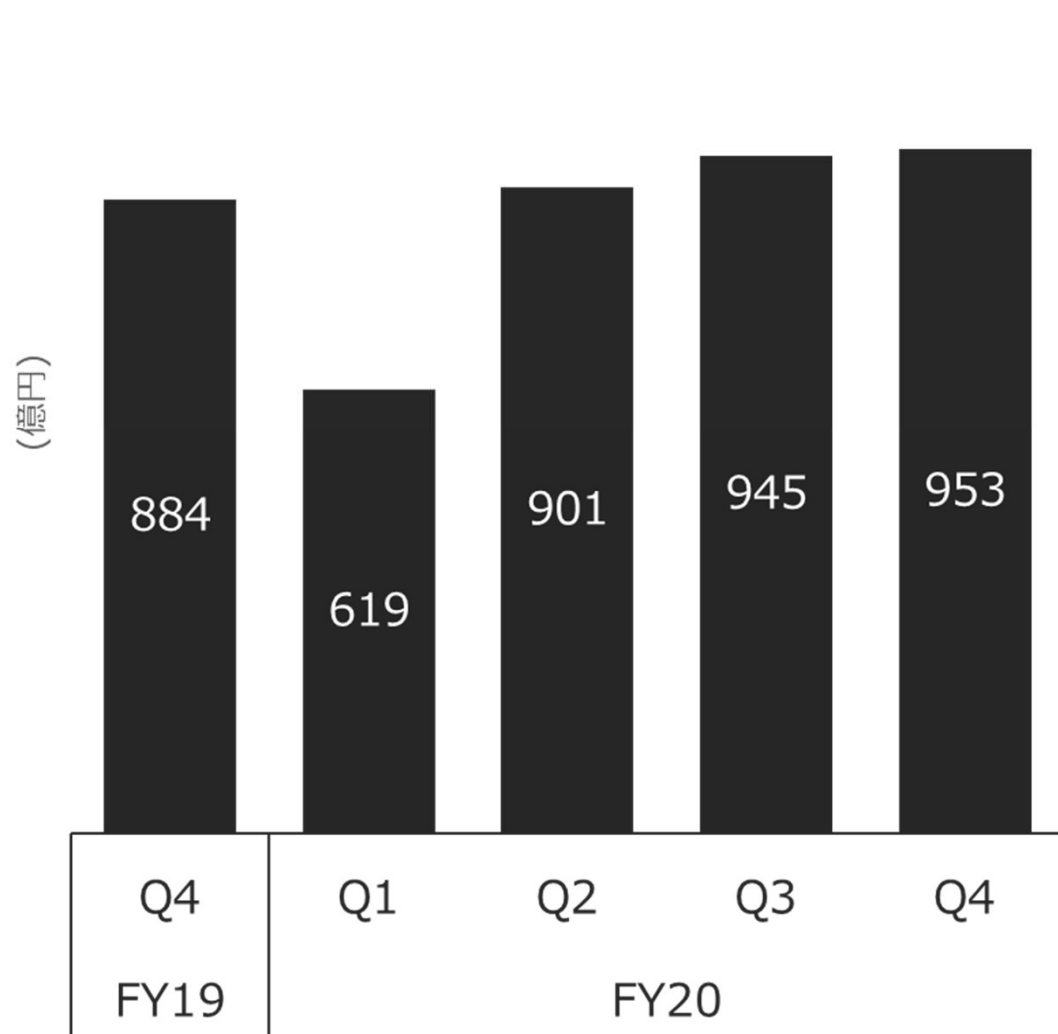
キャッシュフロー計算書（年間累計）

(億円)	FY19	FY20	YoY
営業活動によるCF	1,634	1,518	-116
投資活動によるCF	-474	-298	+176
財務活動によるCF	-855	-1,157	-302
現金及び現金同等物期末残高	3,180	3,349	+169

ライフケア事業 QoQ推移

売上収益

cf. 通常の営業活動からの利益 / 率

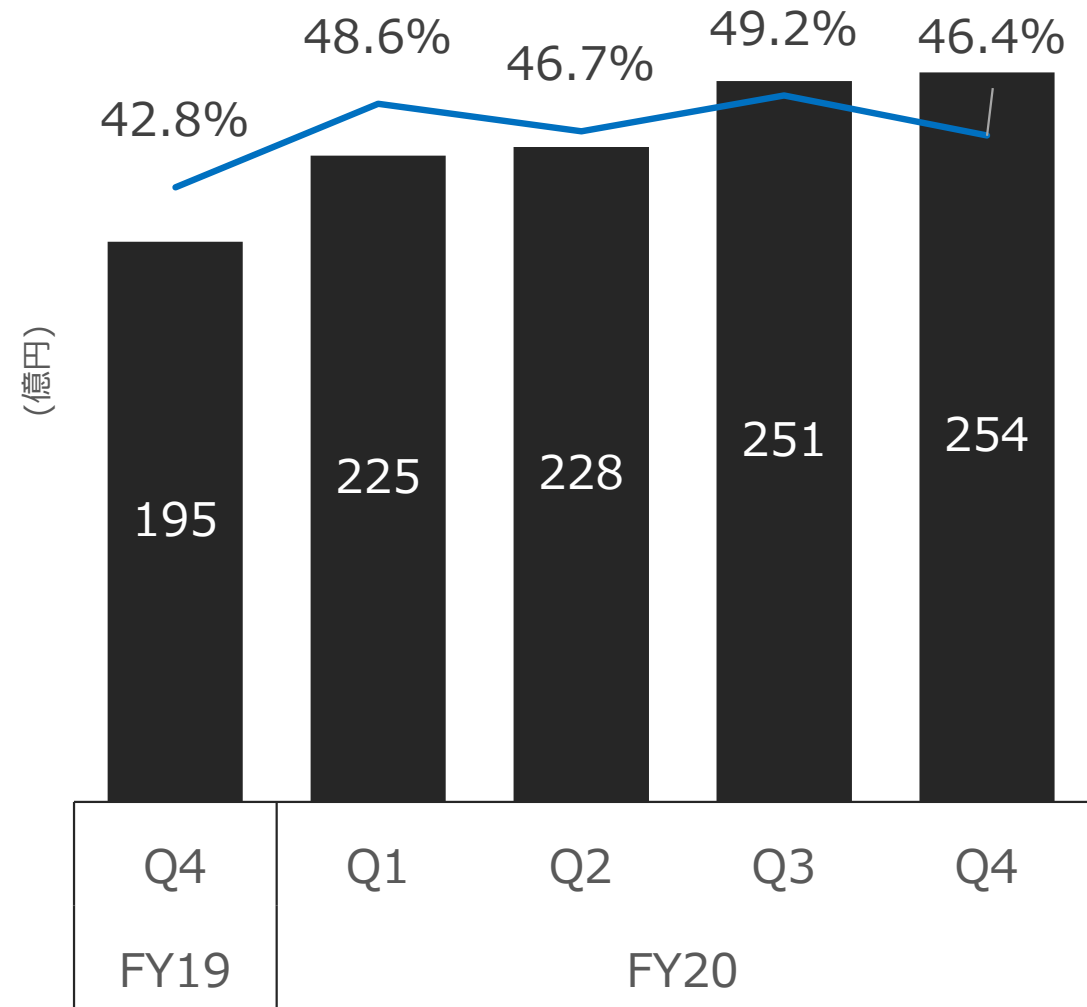
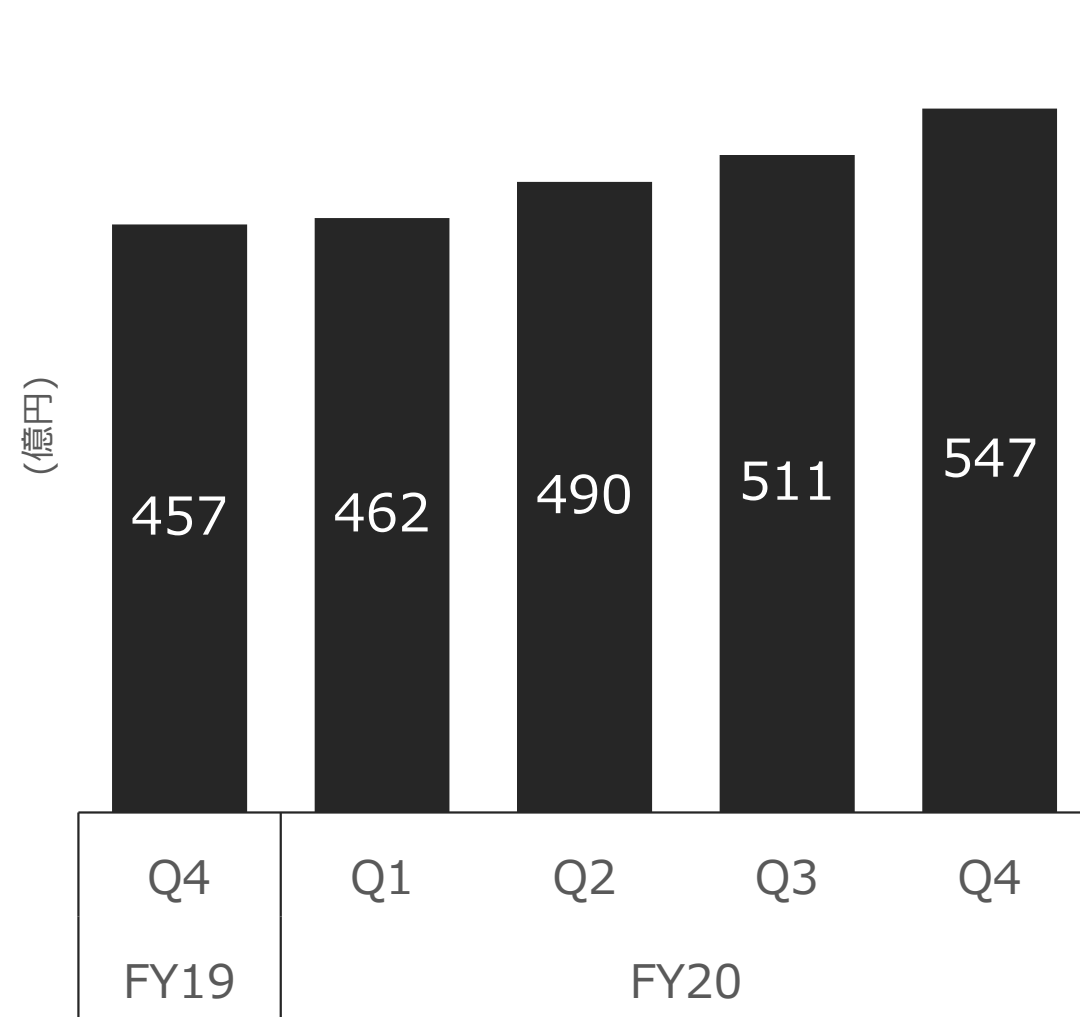


*外部売上の数値

情報・通信事業 QoQ推移

売上収益

cf. 通常の営業活動からの利益 / 率

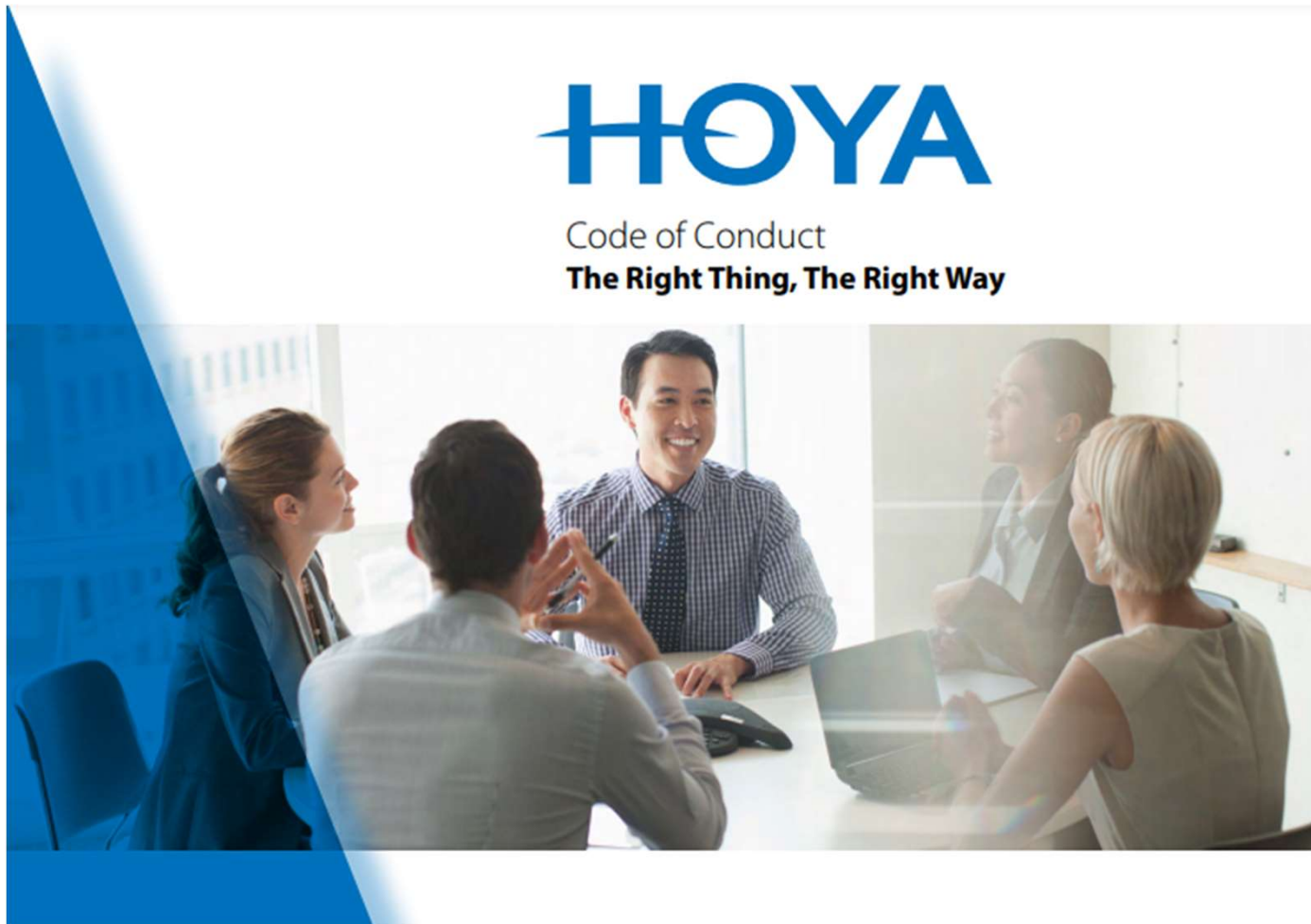


*外部売上の数値

トピックス

当社グループの行動基準を2021年3月にリニューアルしました。本行動基準は、経営理念と経営基本原則に記されたHOYAグループの基本的な理念と価値観に従って、HOYAグループの全ての人々が業務を遂行する中で遵守すべき基本的な指針を定めたものです。グローバルで展開する当社の状況に鑑み、27言語に翻訳し、グループ内での周知徹底を図っています。

https://www.hoya.co.jp/company/pdf/GlobalCoC_Japanese.pdf



本資料の表記について

- ✓ 当社は国際会計基準（IFRS）を適用しています。
- ✓ 2020年4月～2021年3月の会計期間を2021年3月期もしくはFY20と表記しています。
- ✓ 第1四半期、第2四半期、第3四半期、第4四半期をそれぞれQ1, Q2, Q3, Q4と表記しています。
- ✓ 億円未満の金額は四捨五入しており、そのため合計値が合わない場合があります。
%は実際のコル額を基に算出しています。
- ✓ Like-for-Likeとは、為替換算影響やM&A効果、その他のイレギュラーな要素を除き比較した変動率を指します。
- ✓ 通常の営業活動からの利益は、税引前利益から金融収益・費用、持分法投資損益、為替差損益及び非経常的に発生する損益等を除いて算出している参考値です。
- ✓ 本資料の財務諸表は明細を割愛しています。詳細な財務情報は決算短信もしくは決算短信補足資料をご覧ください。

<http://www.hoya.co.jp/investor/kessan.html>

将来予測に関する記述

当社は、将来計画および業績見通しに関する情報の言及や情報開示を行う場合があります。歴史的事実に関するものを除く全ての記述は、将来予測と見做される可能性があり、資料作成時点における経営者の想定や入手しうる情報に基づくものです。これには、為替や金利、国際情勢、市場動向や経済状況、競争環境、生産能力、将来における売上/収益性/設備投資/キャッシュ/その他の財務指標の状況、法的、政治的、または規制上の状況、臨床または研究開発能力、顧客の行動または商慣習、医療費償還制度、現在問題となっているCOVID-19をはじめとする疫病や健康問題などの影響を含みます。当社はこうした情報の正確性または完全性を保証しません。また、新たな情報や将来の出来事などの結果を受けて、将来予測に関する記述を更新する義務を負いません。